



健康に美味しく。 故郷和歌山は 食材の宝庫

「和歌山は、美味しい果物が沢山ある私の大好きな故郷」と語る田中理恵さん。オリンピック出場の話から紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会、そして美容や健康、スポーツに対する思いなどを聞いてみました。

仁坂知事(以下仁坂) ●田中理恵さんは生まれも育ちも和歌山で、2012年のロンドンオリンピックでは、日本体操史上初の3きょうだいで出場を果たしました。またお父さんもお母さんも体操経験者だという体操一家です。理恵さんが体操を始めるきっかけは何だったのでしょうか？

田中理恵(以下田中) ●毎日、母と体操をしている兄を迎えに和歌山県立和歌山北高校の体育館に行くのですが、兄の練習している姿を見て、「カッコイイ！私もクルクル回りたい！」って思ったのが始まりです。

仁坂 ●それから日本体育大学に進学するまで和歌山で過ごされましたが、その頃の思い出話などをお聞かせください。

田中 ●北高校の広い運動場で遊んだことでしょうか。小・中学生時代は、毎日学校へ行き、授業が終わると母の運転する車に乗り北高校の体育館へ直行。そこで高校生の選手たちと一緒に練習していました。だから基本的には、家と学校と北高校の道しか知らないのです(笑)。

仁坂 ●小さい頃から高校生のお兄さんお姉さんたちと一緒に練習していたのは、毎日だったんですね。ところで本格的にオリンピックを目指すきっかけというのは？

田中 ●小学校5年生の時、2000年に開催されたシドニーオリンピックで活躍するロシアのホルキナ選手を見た時からです。彼女は体操選手としては大柄で、どんなポーズや技を決めても絵になる選手



和歌山県産の梅と果物を使ったオリジナルデザート「わかやまポンチ」づくりに励む和歌山大学教育学部附属小学校の児童たちと田中理恵さん。

でした。ずっと伸びる腕や脚、それを見た瞬間、「私もオリンピックという舞台に立ちたい」という衝動に駆られました。

田中 ●それからオリンピック出場まで一直線だったのでしょうか？

田中 ●いいえ。10歳でオリンピックを目指し、日本代表に選ばれたのが23歳。すぐ時間が掛かりました(笑)。中学3年生の時に足首と腰を怪我し、やむなく練習を休止。その間に身長が10センチ、体重が10キロ増え、今まで出来ていた技が全くなさくなりました。思い通りに演技できない私とは対照的に、兄と弟は目の丸を背負いジュニアナショナルで活躍。「私は何の為に体操を続けているのだろう」と悩み、3きょうだいでいることが辛い高校時代でした。卒業後大学に進学し競技人生をやり直すか、和歌山で働くか、すごく悩んでいる時に弟にボソッとひとこと「そろそろ真剣に体操やんなよ！」って言われたんです。凄く恥ずかしかったですね。「努力する事は格好悪い事」と思っていた自分が情けなくなり、もう一度本気を出してやり直そうと、日本体育大学に進学し、左足首の手術も受けました。そこで監督やコーチ、い仲間と出会い、「もう一度オリンピックを目指しているんだよ」って声を掛けてもらっ

知事対談

田中理恵 × 仁坂吉伸

日本体育大学 児童スポーツ教育学部助教
和歌山県知事

たことが大きな心の支えになりました。

仁坂 ●そして理恵さんが一躍脚光を浴びたのが23歳の時、2010年ロケットダムにて行われた世界選手権でのロンジン・エレガンス賞の受賞です。

田中 ●突然の受賞に自分でも驚きました。後に憧れていたホルキナ選手も受賞していたのを知り、自分の目指していた「美しく綺麗な体操が認められたよ」で、本当に嬉しく思いました。

仁坂 ●そうして2012年ロンドンオリンピックに3きょうだいで出場されました。またロンドンオリンピックには理恵さんたち田中3きょうだいで以外にも、レスリングの双子のメダリスト湯元健一・進一選手をはじめとする和歌山県関係者が12人も出場しており、和歌山県人として本当に誇りに思いました。私もバブルックビューイングで大勢の方々と一緒に応援しました。会場にいる全員と感動を共有できるスポーツって凄い力があるんだなって思いました。

田中 ●競技者にとって応援の声というのは、本当に嬉しいもので力が漲ってきます。

仁坂 ●オリンピックといえば、2020年東京オリンピックの誘致活動の理恵さんのスピーチはすばらしかったですね。誘致成功は理恵さんのおかげです。

田中 ●実は英語でスピーチなんてできないからと3回断ったんです。ところがいつの間にか決まってしまう(笑)。でも決まったからには頑張るしかないと思

くつて猛練習しました。気付いたら壁に向かかって一人で英語を話していることもありました(笑)。

迫る紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会

仁坂●そつていよいよ、和歌山県では来年9月26日より、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会が開催されます。施設の準備はほぼ整い、運営についても沢山の人がボランティアとして登録していただくなど盛り上がってきています。理恵さんには「チーム和歌山応援団」の応援団長として大会PRなどにご協力いただいています。

田中●国体は大きなスポーツのお祭りでもあります。選手のみならず、ボランティアで運営を手伝う方々や声援を送ってくださる方々に対する感謝の気持ちを忘れず、日頃の成果を精一杯発揮してもらえらるよう支えていきたいと思っています。私も子どもたちに体操を教えていると、毎回逆にパワーをもらっています。和歌山県ではゴールデンキッズ発掘プロジェクトというプログラムがありますよね？

仁坂●県内の小学生を対象に体力や運動能力に優れた子ども達を発掘・認定し、育成するというプログラムです。将来オリンピックをはじめとする国際舞台で活躍出来る競技者を和歌山県から輩出することを目的としています。



和歌山マリーナ(ディンギーマリーナ)セーリング競技のナショナルトレーニングセンター(世界で活躍するトップレベルの競技者用のトレーニング施設)として日本で唯一指定されている。

魅力たつぷりな和歌山の食材

仁坂●アスリートにとって食事は大切だと思います。和歌山には海や山の食材が豊富にあります。理恵さんは梅干しが大好きですか。

田中●そうです。梅干しが大好きで、ロンドンオリンピックにも箱ごと持っていました。オリンピックは夏ですので、夏バテしないようにとみんなで食べましたが、和



田中●小さい子どもたちが、スポーツに関する様々な教育を受けられる環境が整備されている。それは和歌山の素晴らしいところだと思います。



2015紀の国わかやま国体、紀の国わかやま大会マスコットきいちゃん

仁坂●ありがとうございます。そしてこの国体は、単なる競技大会ではなくて県民

歌山の南高梅は果肉が厚くて柔らかいって大好評でした。食べることはスポーツ選手にとって非常に大事ですが、その中でも梅干しは身体にいいですし、小さい頃から本当に助けられました。

仁坂●梅干しは非常に優れた機能性食品です。クエン酸による食中毒予防や疲労回復効果はもちろん、見るだけでも食欲が出てきますよね(笑)。そして理恵さんには、おいしい！健康わかやま産品応援隊の美容キャブテンにもなっていたり、みかんや柿、桃など様々な果物が年中食べられます。そうした果物を使ったわかやまポンチのメニュー開発などにもご協力いた

みんなが参加しながら盛り上げる大会にしたいと思っています。今、県民の皆さんに人気なのが、紀州犬をモチーフにした元気いっぱい大会マスコット「きいちゃん」。そしてウイングスと坂本冬美さんが歌う、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会イメージソング「明日へと」も注目を集めています。しかしそういったスポーツ熱も一過性ではなく持続可能な活動にしなければなりません。そこで和歌山県では国体の2年後には全日本マスターズ陸上選手権、その後もねりんピック、世界マスターズ大会と大規模のスポーツ大会を次々と誘致しています。また和歌山市のマリーナシティには、セーリング競技のためのナシヨ

だきましたね。
田中●和歌山大学附属小学校で試作コンペがあったとき、特別審査員として参加させてもらいましたが、これが全部美味しくて。和歌山の果実の底力を再認識しました。
仁坂●では最後に、ますます活躍の場を広げる理恵さんにとって、改めて感じる和歌山の魅力を教えてください。
田中●和歌山は海が綺麗で緑も多い。身近な所に畑や田もあり、穏やかに落ち着ける大切な故郷です。
仁坂●これからは日本や世界でご活躍ください。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。



田中 理恵(たなか りえ)

1987年岩出市生まれ。和歌山県立和歌山北高等学校から日本体育大学、日本体育大学大学院に進学。2012年ロンドンオリンピックに兄の和仁氏と弟の佑典氏と共に出場。現在日本体育大学児童スポーツ教育学部助教。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事。



田中理恵さんの大好きな梅干し。南高梅を一つ一つ天日干しして作られる